

2011年度伊藤賞の受賞者が決定

2011年度の「伊藤賞」の受賞者に Natalia Kosolapova さん(ロシア科学アカデミー・ヨッフエ物理工学研究所及びフランスアンリ・ポアンカレ大学の博士課程)が選ばれ、平成23年10月25日(火)、応用力学研究所伊藤早苗主幹教授とともに総長室を訪れ、有川総長から同賞の授与を受けました。

「伊藤賞」(Itoh Project Prize in Plasma Turbulence)は、伊藤主幹教授の名を冠した賞で、ヨーロッパ物理学会(プラズマ物理学)に設けられ、英国物理学会(IOP)出版の共催や、九州大学の後援も受けています。

この賞は、プラズマ乱流の研究に対して優れた成果を発表した博士課程大学院生を表彰し、九州大学に招聘して講演や共同研究の機会を提供し、幅広い視野を持つ場を与えるというもので、今までの受賞者は世界各地で活躍中です。

第7回目となる今回も、世界的権威の研究者からなる国際選考委員会による選考が行われ、選考の結果、プラズ

マ乱流特性の実験的同定方法の開発および計測方法に関する理論的研究が認められたことで、Natalia Kosolapova さんが受賞者となりました。

授与式には、第4回受賞者であり、本学伊藤極限プラズマ研究連携センターで助教として活躍している Stella Odenchinger さんも参加しました。授与後の懇談は、Kosolapova さんが九大での講演報告や今後の研究ビジョンにあわせて伊藤賞の感激を語り、九州大学の国際キャリアパスの取り組みの紹介なども巡って和やかに行われました。



(左から) 有川総長、Kosolapova さん、伊藤主幹教授

世界トップレベルの最先端の研究を紹介



「最先端の科学と君たちの未来」と題した今回のシンポジウムには、福岡県内を中心にこれからの未来を担う高校生・中学生など623名が参加しました。各拠点を代表した講演者からは、最先端の研究について、時折ユーモアを混じえながら丁寧な解説があり、科学が切り拓く未来を感じさせる話も数多くありました。

また、参加した高校生12名と6拠点の講演者とのパネルディスカッションも行われ、環境ジャーナリストの枝廣淳子氏の司会により、「環境と科学技術の関係はどうあるべきか」、「科学者になってよかったと思うことは」などについて活発な質疑応答がありました。

また、会場には6拠点の研究を紹介するブースも設けられ、高校生を中心とする多くの参加者が足をとめ、各拠点の関係者と交流するなど



「最先端の科学」に触れる秋の一日を満喫する様子が見られました。

平成23年11月12日(土)、福岡市内で、「世界トップレベル研究拠点プログラム(WP1)6拠点合同シンポジウム『最先端科学と君たちの未来』」が開催されました。WP1プログラムは、高いレベルの研究者を中核とした世界トップレベルの研究拠点を形成するため、文部科学省が2007年度より開始した事業です。6拠点が合同でシンポジウムを開催するのはこれが初めてであり、シンポジウムは本学のカーボンニュートラル・エネルギー国際研究所(International Institute for Carbon-Neutral Energy Research: iCNER)が主催しました。